

The detection of *Propionibacterium acnes* signatures in granulomas of lupus miliaris disseminatus faciei

学位名	博士(医学)
学位授与機関	宮崎大学
学位授与番号	17601甲第9号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/5425">http://hdl.handle.net/10458/5425</a>

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 9 号	氏 名	西元 順子
審 査 委 員		主 査 氏 名	浅田 祐士郎
		副 査 氏 名	後藤 義寿
		副 査 氏 名	岡山 昭三
[論文題名]			
<p>The detection of <i>Propionibacterium acnes</i> signatures in granulomas of lupus miliaris disseminatus faciei</p> <p style="text-align: right;"><i>The Journal of Dermatology, accepted</i></p>			
[要 旨]			
<p>近年、サルコイドーシスの肉芽腫形成における <i>Propionibacterium acnes</i> (<i>P. acnes</i>) の関与が注目されている。顔面播種状粟粒性狼瘡 Lupus miliaris disseminatus faciei (LMDF) は、顔面、特に両側下眼瞼から頬部に多発する充実性丘疹で、組織学的にししば乾酪壊死を伴う肉芽腫形成が認められる。以前は結核菌の関与が考えられていたが、現在は毛包や囊腫上皮の破壊産物に対する肉芽腫性炎症との考えが支持されている。しかし、これまでに肉芽腫病変内の <i>P. acnes</i> の存在についての報告はない。</p> <p>本研究では、LMDF 9 症例の皮膚生検組織を用いて、肉芽腫病変と非肉芽腫部分における <i>P. acnes</i> の存在を Laser capture microdissection 法と Polymerase chain reaction 法—電気泳動により検討した。その結果、9 症例全てにおいて、肉芽腫病変内に <i>P. acnes</i> の存在が確認された。非肉芽腫部分においても <i>P. acnes</i> が存在していたが、肉芽腫病変に比して電気泳動のバンドは薄く、潜伏感染しているものと考えられた。</p> <p>LMDF の肉芽腫形成における <i>P. acnes</i> の関与を初めて示唆した内容で、学位論文に値するものと判定した。</p>			